

島山翼店長(右)から技術指導を受ける佐藤彩香さん=5月25日、横浜市青葉区の美容室「C-STYL



島山翼店長(右)から技術指導を受ける佐藤彩香さん=5月25日、横浜市青葉区の美容室「C-STYL」。アルバイトと「インターンシップ」を組み合わせた造語「バイトン」。神奈川県立田奈高校は、生徒がバイトで給料をもらいながら職業体験できる仕組み作りに取り組んでいた。バイトが忙しくて職業体験ができない生徒、面接が苦手な生徒など、さまざまな困難を抱える生徒の就労に、ひど縮の光が見え始めている。

横浜市青葉区の商業施設に島山翼店長(右)から技術指導を受ける佐藤彩香さん=5月25日、横浜市青葉区の美容室「C-STYL」。アルバイトと「インターンシップ」を組み合わせた造語「バイトン」。神奈川県立田奈高校は、生徒がバイトで給料をもらいながら職業体験できる仕組み作りに取り組んでいた。バイトが忙しくて職業体験ができない生徒、面接が苦手な生徒など、さまざまな困難を抱える生徒の就労に、ひど縮の光が見え始めている。

神奈川県立田奈高(下)

希望 この手に

第3部⑯

入居する美容室「C-STYL」で働く佐藤彩香さん(20)は、神奈川県立田奈高校に在学中から同店でバイトし、就職につなげた。高校の正代理事長(47)との出会いがきっかけだった。「お客様と一緒に話すことが楽しい。忙しい

図書館で交流相談を行つて、たNPO法人ハノラマの石井正代理事長(47)との出会いがきっかけだった。「お客様と一緒に話すことが楽しい。忙しい

店長(37)と知り合った石井氏は、仕事内容を詳しく説明した。石井氏は佐藤さんを島山店長に推薦。佐藤さんは家族の同意の下、職業体験を

や島山店長との出会いに感謝する。田奈高校は神奈川県の新しい公共事業として2012年1月から14年3月までバイトン事業に取り組んだ。佐藤さんの事例は同事業終了後、

まつたく応募がないことも多い。せっかく採用しても、すぐやめてしまう人も多い。採用前のバイト期間で店との相性を判断できるバイトンは、経営者側のメリットも大きい。

島山店長は「佐藤さん

生徒、企業双方に利点

「バイトン」で就労支援

せる。

佐藤さんは在学中、美容師を目指していたわけではなかった。

佐藤さんは在学中の14年7月から同店でバイトすることにな

した。

佐藤さんは働きながら通信

美容室は有資格者を採用条件にしており、資格を持つ

ことには異例だ。佐藤さんは

田奈高校は普通科のみの全日制高校で、美容師の資格を取れる環境はない。進路については、やりたいことが多すぎて一つに絞れなかつた。『保育士になろうか』などと思つたことはあるけど、美容師は考えたこともなかつ

た。お客さんとの会話の様子や普段の気遣いなど、バイト

期間中に適性を見ることができなければ、美容師になる

うに、美容師にならなかつたはずの人も水面下でくい上げることができる」と、人材確保の利点を強調する。バイトンの学生が問題行動を起こし、店のイメージダウンにならざることも考えられるが、島山店長は「誰かが面倒を見ないと社会は良くならない。経営者は自らの獲得ばかりを考え、自分の力で人を育てる

ことも重要だ。採用にはコストかかるのでせつかりな

う子もたちのためになる方がいい。バイトンがどんどん広まってほしい」と語った。

(子どもの貧困取材班・福

福政報)

情報やご意見をお寄せください。

文化部生活班 098(865)5162

社会部 098(865)5158

seikatu@ryukyushimpo.co.jp

FB「チームいしがんとう」で発信中